

RKU Today

流通経済大学広報誌 vol.6

[新学長インタビュー]

今こそ重要ではないか、
フロンティアスピリッツ



流通経済大学

WINTER 2009

CONTENTS

RKU Today vol.6
Winter 2009

表紙イラスト：佐々木悟郎

- [新学長インタビュー]
- 04** **今こそ重要ではないか、
フロンティアスピリッツ**
小池田富男 学長
聞き手：馬場啓一（法学部教授）
- [特集]
- 08** **龍ヶ崎キャンパス周辺探訪
キャンパス周辺に「龍」をめぐる ー後編ー**
文：平島敏幸（経済学部講師）
- 連載 [ロンドン留学余話] パブの話 其の三
- 12** **パブはコミュニケーションの場である**
文：波田永実（法学部教授）
- Close Up!
- 14** **流通経済大学 [教職員紹介]**
- コラム [馬場啓一のRKUウォッチング]
- 16** **アスリート 田山寛豪に聞く**
- [OB/OG 訪問] 立川が聞く
- 18** **荒木隆史さん**
(1976年卒業・阿見町立朝日中学校校長)
取材：立川和美（社会学部准教授）
- [留学生紹介]
- 20** **ゾー・ピャエーさん（ミャンマー出身）**
「自分の夢をつかむために、日本へ」
取材：沖野雅広（企画広報室）
- 21** NEWS & TOPICS

巻頭言

龍ヶ崎キャンパスの1号館のちよ
うど眼下には露月池が広がり、
その水面からの乱反射する光を
浴びて、今年も深紅や黄色の
最後の輝きを終えた木の葉が、
北風に吹かれて舞い散っている。

その池の端に一体の地蔵尊が
鎮座しているが、かつて30年
ほど前のスポーツ大会で亡くな
られた群馬県出身の学生を供養
するため、建てられたものである。
まだ一学部時代のこともあり、
1号館や図書館、さらには隣に
広がるサッカーグラウンドもない
時代のことであったから、さぞや
故人はRKUのこの30年の変わり
ようには、毎日目を丸くし、細め
ているに違いあるまい。

大学はたんにそれぞれの学部で
専門の学問を教えているだけ
ではなく、ご両親から大切な
ご子弟をお預かりして育ててい
るのだという気持ちを、今年も
またこの秋の風情を眺めながら、
新たにしている。





た実用に即した学問の府として大学は設置されました。それらが東京を始めとする、いわゆる各地の帝国大学として形を整えていきました」
「我らの父祖の歴史である。」
「その一方で、医学の専門学校、鉱山学や工学の学校、美術学校、そして経済専門の学校などの高等教育機関も設立され、それが戦後の大学制度の改編によって例えば東京高等商業が一橋大

学に、高等工業が東京工業大学になったりと、形を変えていったわけです」
「そこに我々の大学の範(手本)があるのではないか。小池田富男学長は言う。『つまり旧制の高等専門学校ですね、それを目指すべきだし、これまでもある程度その路線で、進んできたのではないか、そう考えるのです』
使いたいものになるような人

材を世に送り出す、ということである。
「建学の精神の一つであるリベラル・アーツですが、一口にリベラルと言ってもわかりにくい。実はリベラルとはリベレートすなわち解放して古い物事にとらわれない、ということ。たんなる教養主義ではなく、大概と志をもった人格の形成ということでしょうか」
一語一語を揺るがせない姿勢が小池田富男学長の身上である。
「本学では、かつて盛んに言われた言葉にフロンティア・スピリッツ、というのがあります」
「残念ながら最近、あまり口に出す人がいません。『そう、ひじょうに寂しいことですが、事実です。でもこのフロンティア・スピリッツ、すなわち新しいことに果敢に挑戦していくという精神が、今こそ重要ではないか、そう考えるのです』
世の中の流れが速くなって来ていること、関係が

フロンティア・スピリッツ、
すなわち新しいことに果敢に挑戦していくという精神が、
今こそ重要ではないか、そう考えるのです



【新学長インタビュー】

今こそ重要ではないか、フロンティアスピリッツ

平成20年11月の選挙において、流通経済大学第5代学長に就任された小池田富男学長。じっくりお話を聞いた。

聞き手：馬場啓一（法学部教授）

「建学の精神である、あくまで実学に徹した学問の追求、少数数による全人的な人格の形成、そしてリベラル・アーツ(※)の徹底、これが基本精神であることに変わりはありません」
「きっぱりと言い切るその口調は自信に溢れ、情熱を感じさせる。新たな学長に対する期待はいやがうえにも高まっていく。」
「その上で、流通経済大学の教育力と存在感を、どのように社会に対してアピールしていくか、発信していくかということが、ひじょうに重要になってきます」
小池田富男学長は本学に赴任して三十二年となる。奉職する流通経済大学については誰よりも熟知しているという自信、そしてこの度その重大な舵取りを任せられたという自負が、力強い言葉となって伝わってくる。
「そもそも明治の初年に大学制度が設けられた時、官僚養成のための法律学校、医学のための医学校、といっ

※リベラル・アーツ (Liberal Arts) …… 専門分野にとどまらず、幅広い知識、教養を身につけた人間としての成長を目指す教養教育。



流通経済大学学長 小池田富男 略歴

1949年 石川県生まれ
 1976年3月 東京大学大学院経済学研究科 博士課程満期退学
 1976年4月 流通経済大学 経済学部専任講師に就任
 1988年4月 流通経済大学 経済学部教授
 2001年4月 流通経済大学 経済学部長
 2001年から現在 学校法人日通学園理事に就任
 2008年11月 流通経済大学 学長に就任

専門分野
 経済学史、経済思想、社会経済学

代表的著書
 『貨幣と市場の経済思想史—イギリス近代経済思想の研究—』
 (流通経済大学出版会、近刊予定)
 『市場社会論の構想』(社会評論社、1995)

である。だが、昨今の大学はもう「産学連携」とあらためて叫ばなくても、その体勢は作られており、発想は初めから視野に入っている。「今はそういう時代なので、ね。それだけ世の中のスピードが速まっており、そして経済活動と学問というものが分かちがたく、強気に結びついていくのです」
 それに対する人材の供給がポイントなのだ。
 小池田富男学長の施政方針。それは結局建学の精神を堅持するところにある。だがそこには、創立された四十三年前とは比べ物にならない世の中のスピード、そして社会の体制の変化が大きく影響していることを無視することはできない、と気づく。

「大変な時代ですし、変革を迫られる場面が多々あると思います。しかし要はそのように動きに柔軟に対処できるように普段から備えておくことでしょうか。龍ヶ崎と新松戸という二つのキャンパスを有する利点をわきまへ、海外からの留学生を受け入れる際にも、流通経済大学ならではのノウハウを示していきけるように、準備しておく必要があります」
 流通すなわちロジスティックという分野は今後益々発展しそうです。
 「例えば中国ではその点で、本学に大いに期待する向きがあるのです。リテールの流通ではなく、ロジスティックの発想は我々の得意分野として益々特化していく必要があるでしょうね」
 新学長の見据えた新たな間口も広いのである。
 「趣味はクラシック音楽。一九八八年にヘルベルト・フオン・カラヤンがベルリン・フィルハーモニック・オーケストラを率いて、彼の最後の演奏会を日本で行ったのを聴いている、というのが自慢です。この十一月二十六日にもベルリン・フィルを聴きに行きます。家には妻と三女がいますが、四対一で分が悪いので、雄のイヌを飼っています(笑)」

あるのでしょうか。
 「まさにそうです。時代に即した対応が必要です。そしてそういう時代だからこそ、我々は勇気を持って、挑戦し続けなければならぬのです」
 実はこのインタビューと前後して、新学長の肝いりで、文部科学省から企画官の榎本剛氏を招聘し、「学士課程教育の構築に向けて」という、FD(※)に関する講演会が開催された。
 就任からまだいくらか日がたっていない。まことに機動力溢れた施策で、小池田富男学長の実行力を見せ付ける結果となった。

「大学に就学するのは十八歳ですが、現在その人口が、この十年は百二十万人という数字で推移します。うんと減っているのです。それに対する大学側の対応はどのようなものであるべきか、ということを榎本氏にお話しいただきました」
 まことに説得力に溢れた講演であった。
 「何を教えるかというより、何が出来るようになるか、それがこれからの大学の使命だと言われました。まことに論旨明快でした」
 文部行政も大いに様変わりをしているということだろう。
 ここまで踏み込んで、しかしそれは介入ではなく、大学の生き残りのためのアイデアとして提示されているのが、よくわかった。「そうでした。この指針はそのまま、本学の標榜する『実学の徹底』に結びつくのではありませんか」
 かつて「産学協同」という言葉は悪意を込めて言われた。目の敵にされたもの

大変な時代ですし、変革を迫られる場面が多々あると思います。
 しかし要はそのように動きに柔軟に対処できるように普段から備えておくことでしょうか



龍ヶ崎キャンパス周辺探訪 キャンパス周辺に「龍」をめぐる

— 後編 —

本誌前号では「キャンパス周辺に『龍』をめぐる—前編—」として、おもに龍ヶ崎という名前について考察し、同時に市内各所に見られる「龍」にちなんだものを写真でご紹介しました。後編となる今回は、龍ヶ崎市内に所在する寺社を探訪、ご紹介していきます。前回、今回でご紹介した他にも、龍ヶ崎市内にはまだまだ「龍」にちなんだものがあるはずです。これを機会に皆さんも「龍探し」に出かけてみませんか？

文：平島敏幸（経済学部講師）

頼政神社

頼政神社は、源頼政の墳墓という言い伝えを持つ小祠です。源頼政は平安時代末期の武將で、源氏ながらも平清盛からあつひ信頼を受け、従三位まで進みました（源三位頼政）。しかし、清盛の死後、後白河法皇の皇子以仁王を奉じて平氏打倒の兵を挙げます。これを機に治承・寿永の乱が始まるのですが、頼政自身は宇治で敗死しました。



龍ヶ崎市の頼政神社

頼政は死に臨んで首をさらされることを恐れ、家臣に首を落とさせます。その後の首の行方については諸説ありますが、その一つが家臣の下河辺清恒が持つて逃げたというものです。清恒が逃げる途中、首を入れた桶が重くなって動かなくなりました。これは主君の意志に違いないと、そこに首を埋葬した。その地こそ頼政神社だというわけです。

ここに登場する下河辺清恒は、下河辺政義の兄に当たる人物です。やがて龍ヶ崎が下河辺政義の支配下に入るに至り、平家打倒の先駆をなした頼政の墓は下河辺氏とその領民にとって精神的な糧となり、新地開発の産土神の地位を獲得すると説かれています。

ただし、清恒が葬ったのは頼政の息子の仲綱の首との説もあります。さらに印西市の結縁寺と古河市の頼政神社にも同様の由緒が伝えられていて、墓の真偽は明らかではありません。しかし、土地の人は「頼政さま」とこれを崇敬し、八〇〇年の長きにわたって信仰の対象となっています。

なお、古河市の頼政神社の近くに龍崎（立崎）という地名があり、古河にいた下河辺氏が現在の龍ヶ崎地域に移った際に地名も移った、とする説もあります。



古川市の頼政神社

上町八坂神社

下河辺氏との関わりを由緒に持つ、いまひとつの神社が上町八坂神社です。境内にある案内板には次のように記されています。

「文治年間（一一八五～一一八九）、常陸南部を領地としていた下河辺政義が、龍ヶ崎の開拓に当り、高井（貝原塚）の農民を移住させ、その鎮守天王社を寺院とともに現在の根町の地に分祀したのが当社のはじめであるという。……天正五年（一五七七）九月、天王社を根町から現在地に移し、

龍ヶ崎の鎮守とした」。ただし、貝原塚から選んだ時期自体を天正五年とする文献もあり、その起源は判然としません。

上町八坂神社の神事として有名なのが「撞舞」です。七月末の祇園祭の最終日に、緑色の唐草模様の衣装に雨蛙の面をかぶった舞男が、高さ一四メートルの撞柱に上ります。柱の頂上には円座があり、そこで「雨蛙」は東西南北に向けて矢を放ちます。続いて逆立ちや綱渡りを披露する、

これが「撞舞」のおおむねです。撞舞には雨乞いや五穀豊穡、厄除けの意味があるとわわれています。

あまり知られていませんが、撞柱にも意味があつて、龍をあらわしていると考えられます。撞柱は紺と白の木綿で覆われますが、紺布は龍の背中を、白布は龍の腹を表現しているのです。水をつかさどるとされる「龍」に「雨蛙」が上る。雨乞いの儀式としては、誠にふさわしい道具立てといえるでしょう。



上町八坂神社



「撞舞」で立てられる撞柱

龍泉寺



龍泉寺

上町八坂神社から六〇〇メートルほど離れた場所に、「龍」の字を寺号に含む龍泉寺があります。一般には「龍ヶ崎観音」の呼び名で親しまれ、安産・子育ての観音として知られています。寺の由緒によれば、平安時代初期の淳和天皇の時代に、日光山中禪寺の開祖勝道上人の高弟蓮雪法印が、弘法大師に安産守護の観世音菩薩像を乞い、この地に安置したことが始まりとされています。ただし、天正年間（一五七三～一五九二）に土岐胤倫の創建に

なり、寛永年中（一六二四～一六四四）に上野寛永寺の天台僧正によって再建されたとの説もあります。土岐胤倫は、一六世紀半ばに龍ヶ崎地方の最大勢力であった江戸崎城主土岐治英の次男で、永禄一一（一五六八）年頃に龍ヶ崎城主となつてこの地方を治めた人物です。胤倫が、妻の難産に際し山城国から弘法大師作と言われる聖観世音菩薩像を迎えて寺を建て祈願したところ、無事に出産することができたと伝えられています。



三宅花園の肖像画

前述したように、龍ヶ崎には「龍」に関わるさまざまな「龍」が存在します。けれども、いずれも「龍ヶ崎」の起源を示す「龍」ではなく、「龍ヶ崎」という地名が意識されての名称であり、事物であるようです。龍ヶ崎にあつては、やはり「龍」は特別なんでしょう。

流通経済大学は「流大」と略されますが、もしかしたら「龍大」となっていたかも知れません。建学の際、大学名は龍ヶ崎と関係するものではなく、辰年生まれによるものでしょう(十二支の中で架空の動物は「辰」＝龍だけです)。



三宅雪嶺の書として伝えられる「龍」



さまざまな「龍」

龍ヶ崎には「龍」の字がつく仏閣がもう一つ存在しています。太田山金龍寺です。ただし、金龍寺はもともと龍ヶ崎にあつたわけではありません。もともとは上野国太田金山(群馬県太田市)の金山城主、横瀬国繁が文明年間(一五世紀後半)に創建した横瀬氏の菩提寺でした。一六世紀末に横瀬氏の子孫の由良国繁が牛久に転じるにもなつて、寺も移転しました。境内の裏手には、由良氏の祖先とされる義貞以下新田氏累代の墓が残されています。また、また寺宝の「絹本着色十六羅漢像」は、国の重要文化財に指定さ



新田氏累代の墓

金龍寺



金龍寺

龍ヶ崎には「龍」の字がついていません。寺伝によれば、これは曹洞宗の開祖道元が宋から持ち帰ったもので、建長寺開山の蘭溪道隆から新田義貞へ、そして義貞から金龍寺に贈られたものとされています。

龍ヶ崎における手水の「龍」のさまざま

神社や寺院には、参拝前に手を洗い、口を清めるための手水があります。龍ヶ崎にある寺社では、この手水も龍を模したものが多くあります。



竜泉寺



金龍寺



上町八坂神社



来迎院



女化神社

大統寺

大統寺は、山号を龍峰山(りゅうほうざん)といいます。「龍峰」は古城の台地の東側一帯を指す地名で、龍ヶ崎城はかつて龍ヶ崎城とも称されていました。寺伝によれば、大統寺は、天岩梵宿(てんがんぼんしゆく)によって天正一三(一五八五)年に成立した、とされています。天岩梵宿は土岐治英の弟で、土岐胤倫の叔父に当たる人物です。そのよ

うな関係から、大統寺ははじめから土岐氏の菩提寺の役割を与えられていたようです。ちなみに、土岐治英は大統寺成立の前年、天正一二年に死去しています。寺の建立を推し進めた土岐胤倫も慶長四(一五九九)年に死去し、大統寺に埋葬されました。なお、「大統」は胤倫の法名です。「大統寺」の寺号は胤倫の死後に正式に付けられたのかも知れません。大統寺境内の墓地には、現在でも胤倫の墓と伝えられる宝篋印塔が残されています。



大統寺



土岐氏の墓

来れば必ず友達と会える。そしておしゃべりしながら、カードなどのゲームをしながら、いくつものグループがビールを飲みながら楽しんでる。ダーツの的はパブ備え付けのもので、熱心な人はマイ・ダーツ(自分の矢)を持参だ。前号にも出てきたこのパブの長男がこの光景を見ながら私が話しかけると「ここはコミュニティー・パブだ」と彼は言った。みんなが顔見知りで、一〇年、二〇年の付き合いだ。「今日はだれそれはどうした?」と誰かが聞くと、親指でドアを指しながら「後で来るよ」と答える。そうするとやはりしばらく遅れて噂の人物がのっそりとおしゃべりして、そういう感じだ。

一人が後の二人にご馳走しているわけではない。一人一人が小銭で払うと面倒なので、まとめて誰かが払うのだ。そして次の一杯は別の一人が三杯分頼んで金を払う。これを繰り返していくのだ。飲むスピードというのは人それぞれだ。早く飲み終わった人が次の一杯を頼む時、まだ連れの二人のは残っている場合がよくあるが、かまわず三杯頼み、新しい一杯がまだ飲んでるグラスの隣に置かれることが多い。では途中で抜けたくなったらどうするのか? そこは友達同士、次の機会にお返しをすればいい。なにしろほとんど毎日このパブで顔を合せているのだから。この「おごり、おごられ」というのをやってこそ真の常連といえよう。私? はい、そういう仲の飲み友達が一人できました。こうしてパブでは次々にビールが飲まれていくのである。



コベントガーデンにある、ソールズベリーのビクトリアン・グラス。店内すべてが、見事なガラス装飾でおおわれている



ブラック・フレイヤーという名前のパブ。時計の下に黒い修道服を着て名前の由来となった修道僧が立っている

ロンドンのパブあれこれ(3)

パブの名前からイギリス史にアプローチする

ここでパブの名前とその歴史の意味について簡単にふれておきたい。一番多い名前はレッド・ライオンだとももの本に書いてある。看板は何れも後ろ足で立った赤いライオンだ。ロンドンで他に目立つ名前といえばTHE GEORGEだろう。この名前のパブも結構多い。何故か?

ジョージはハノーバー朝の初代国王の名前である。スチュワート王家の血を引くドイツのハノーバー選帝公だったゲオルグがスチュワート王家の直系が断絶した時、1701年に成立した王位継承法によりイギリス国王に選ばれたのである。他にも血縁の候補者はいたのだが、その人物がカソリックだったため、イギリス議会はプロテスタントの王を望んだのだ。1714年のことだった。現在のウィンザー王家はこの家系の直系の子孫になる。この家系の歴代の王はジョージを名乗った人が多い。現在まで初代のジョージ一世からジョージ六世までいる。ちなみにジョージ六世が現エリザベス女王の父君である。ジョージ一世からヴィクトリア女王までをイギリス史では前記の事情からハノーバー朝と呼ぶ。そしてヴィクトリア女王の前代のウィリアム四世までのイギリス王は同時にハノーバーの君主でもあったわけだ。これを同君連合という。しかし、ヴィクトリアがイギリスの王位を継ぐ時、ハノーバーは男系の子孫のみ王位継承権を認めていた(サリカ法)ので同君連合を解消し、別の王を立てた(ヴィクトリアの叔父)。したがって以降、ヴィクトリア女王の後継の王はハノーバーの君主を兼ねていない。そして彼女はアルバート公と結婚したが、アルバート公の家名を

ザクセン・コーブルグ・ゴータという。いずれもドイツの地名だ。ヴィクトリア女王の次のエドワード七世とその次の第一次世界大戦時の国王ジョージ五世まではこの家名を名乗っていた(イギリス風に言えばサクセス・ゴーパーグ・ゴータ家)。しかし、第一次世界大戦中にイギリス王家の名前が敵国ドイツの家名では国民の手前まずい、ということになって、王城の地名をとってウィンザー家と改姓したのである。仮に現エリザベス二世の後に王太子のチャールズが即位することになると、現女王の夫君エディンバラ公フィリップの家名マウントバッテンを付け加えてマウントバッテン=ウィンザー家と名乗ることになる。ちなみにマウントバッテン家もドイツから来た家系でもともとはバッテンベルグ家といったのだが、第一次世界大戦中に王家と同じ理由で改姓した。もっともこちらはドイツ語名を英語読みに直しただけであるが。

ともあれ、ジョージ一世から現在までの11代の国王の中、6代の王がジョージを名乗っているのである。残りの中、2人は女王なので、男性でジョージを名乗らなかつたのは3人だけということになる。ジョージと名乗るパブの看板は歴代のジョージの中の誰かの肖像である。

ジョージといえば、もう一つセント・ジョージを指す場合がある。このパブの看板は、大体、白馬にまたがった甲冑を身につけた人物で、その多くが長い槍で竜を退治している図像である。こちらのジョージはイングランドの守護聖人である。ただジョージという場合もこの図像の看板だと国王ではなく守護聖人の方だということに



たくさんある、ザ・ジョージのパブサインの一つ

なる。イギリス人にとってジョージという名前が意味するものがおわかりいただけたらだろうか? 反対に、国王の名前で絶対にパブの名前にはない(と思われる)一なにせ全部知っているわけではない)のはジョンであろう。ブランドジャネット朝3代目の王で13世紀初頭、フランスにあった広大なイングランド領のほとんどを失い「失地王」と呼ばれた人物で、数々の失政の結果、イギリス憲政史上特筆すべきマグナカルタに調印せざるをえなかった国王である。最近では学問的にその評価の見直しが進んできたとはいえ、一般的にはイギリス史上最悪の王とされ、それ以降ジョンを名乗る国王は一人もいないのである。つまりイギリス王家にとっては縁起の良くない名前なのだ。私もキング・ジョンとかザ・ジョンという名前のパブはこれまで一軒も見ることがない。ただし、国王の名前ではない人の名前でもジョン・何々という名前のパブはある。ソーホーにはジョン・スノウという名前のいいパブがある。

連載 [ロンドン留学余話] パブの話 其の三

パブはコミュニケーションの場である

波田永実 (法学部教授)

今回は、ロンドンのパブに集まる人々の様子をお伝えします。テレビでスポーツ観戦したり、カードやダーツに興じたり、友達とおしゃべりしたり…楽しみ方は人それぞれようです。

メイソンス・アーム(石工亭)というパブのカウンター。バーメイドが握っているビア・コックを手前に倒すとビールが注がれる

観察者の目でパブで飲んでいて、それが地域のコミュニケーションの中心の一つであることに気がつく。前号でふれたTHE COACH&HORSESはロンドンのど真ん中のビジネス街、シヨッピング街にある。従って、客の大半がその近辺で働くサラリーマンたちである。場所柄観光客も多い。しかし、ビジネスマンが中心であることは昼食時と夕方以降の男性客の多くがスーツ姿であることと日曜日が閉店日になっていることでも明らかだ。観光客中心でやっているのではあれば、場所柄日曜日はかき入れ時はずだ。ここはウィークデーは午後五時過ぎから混み始める。勤め帰りのグループが三々五々集まってくるからだ。そして顔見知りを見つけて挨拶したり、立ったままビールを飲みながら楽しそうにワイワイガヤガヤとやっている。時々、サッカーやラグビーの試合のテレビ放送がある時には応援のグループがいくつも



伝統的なパブのメニューの一つ、ローストビーフ。左の丸いものが、ヨークシャー・プディングというつけ添え。パイ皮と日本のお餅の中間のようなビミョーな食感

集まって氣勢を上げながら飲みながら観戦している。これはどこのパブでも見られる光景である。イギリスはBBCの受信料も高いし、人気のあるスポーツ、つまりサッカー、ラグビー、クリケットなどの試合のほとんどは衛星放送やケーブルテレビで放映される。この料金がまた高いのだ。そこで、多くの人はパブでひいきのチームの試合をビールを飲みながら友達と一緒に観戦するということになる。そのため、多くのパブには客寄せのため大画面のモニターが設置されている。それに対して、これも前号でふれたハムステッドのTHE DUKE OF HAMILTONは住宅地の中にある典型的なローカル・パブである。ここでいうローカルとは地方という意味ではなく、「地元」とか「行きつけの」というような意味だ。ここもやはり来るのはいつもの曜日にいつもの時間、いつもの顔ぶれ、そして飲んでるのはいつものやつ、である。しかし何度か通ってみると、都心のTHE



フリート街にある、ザ・ジョージの建物

COACH&HORSESとは雰囲気が高まっていることに気づいた。高齢者が多いのだ。明らかにリタイアした人たちが集まっている。昼間からずっとビールだけを何杯もお代わりしながら、新聞を読んだり、テレビを見るときもなく見たりして時間を潰している人や、土日などは友達同士でカードやダーツなどのゲームを楽しみながら飲んでいる人が目立つ。ゲームは数種類が用意してあるのでバーマンに



ソーホーにある、ドッグ・アンド・ダッグのパブサイン。1765年3月にモーツァルトがピアノ演奏したことがあるという



[学生部 学生生活課]
吉野 毅 係長

今年のつくばね祭が大盛況で無事幕を閉じた。

テーマは「過去+ α =現在」。先輩達が培ってきた歴史+今年の実行委員会の思いが込められていた。2004年度からの2キャンパス制の影響で、龍ヶ崎キャンパスの学生は半減し、一大イベントであるこのつくばね祭も年々縮小傾向にはなってきた。

しかし、今年は多くの参加者で祭りは大いに盛り上がり、彼らの+ α の思いが結実した。グランドフィナーレで、3年間の思いを涙ながらに語った実行委員長が印象的だった。やりきったそれぞれの顔には「きらっと光るもの」があった。

世間では、今の大学生は責任感や自分で考える能力などが昔の大学生より弱いようだとされている。実際にそんなところもあるかもしれない。

学生生活課は学生と接する機会が一番多いところである。この課にいるかぎり、足りない部分はできる限りサポートし、彼らの「きらっと光るもの」を引き出していく手助けができればと思う。

きらっと光るもの



[スポーツ健康科学部]
田蓑健太郎 准教授

丸顔で目鼻立ちも体型も丸い。人をほんわかと暖かく包み込む雰囲気を持ち主である。

兵庫県尼崎市生まれ。中学・高校では短距離、幅跳び、やり投げの選手。体育教師を目指し日本体育大学に進学。スポーツの奥の深さにひかれて大学院へ。

専門は「スポーツ人類学・スポーツ史」。陸上競技部顧問。村落の祭祀や伝統行事に潜むスポーツ的事象に着目する学問である。現在、龍ヶ崎市の伝統行事「撞舞」(つくまい)を事例に研究中だ。

本学部名物、「どらコロ体操」の発案者。下半身と肩まわりを中心としたユーモアたっぷりの体操だ。

コロケで街おこしをする龍ヶ崎市の地域活性化に一役買おうと、歌手の五月みどりさんの「コロケの唄」に合わせて、ヨリトモ・陸上競技部員らと体操を考えた。現在は、毎月2、3回小学校、公民館、福祉施設などで指導している。

学生たちには、根っこのところで「真摯」かつ「謙虚」であれ、と言い続けている。

(粟田房穂・記)

「どらコロ体操」で街おこしに役



[法学部]
坂野喜隆 講師

本学のモットーである実学を率先実行されているのが自治行政学科の坂野先生。「地元自治体の各種審議会などに参加し、実際の政策決定に関わることが多いのです」

これにはゼミの学生も加わっている。「生きた自治行政のテキストとして、学生たちは真剣に取り組めます。地域貢献というのは、なかなか実際に体験することが難しいですから、得るところ大だと思います」

これ以上のチャンスはないだろう。「特に龍ヶ崎市とその周辺には、本学のOBが大勢いらして、在校生が可愛くて仕方がない、と言われるんです。そのことが地元理解と政策決定における推進力となっているのです。これは大きいですね」

今後とも大いに地元との連携強化に努めていただきたいと思います。

(馬場啓一・記)

地元との連携で実学主義を実行



[流通情報学部]
古井恒 教授

私は本学の卒業生で、まだ小さい大学だった頃から知っています。今は教員という立場ですが、当時と比べるとずいぶん変わってきたなど実感しています。専門の研究領域は物流ですが、特に、商品が消費された後の再利用における物流といった、環境と関わる部分に興味があります。廃棄物というそれ自体には値段のないような物をいかに安く安全に運ぶか、リサイクルにおいて物流はとても重要です。リサイクル物流の難しさは、何十万という消費者から商品とは逆方向に、それを分別して一つの工場へと集めなくてはならない点でしょうか。たとえば、一握りの米を散らすのは簡単ですが、散らばったお米をもとの一握りにするには、大変なエネルギーと知恵が必要なことを考えてみると、よく分かりますよね。日本では新聞紙や段ボールなど、紙については古くから盛んですが、韓国のようなペットボトル回収・リサイクル費用メーカー負担表示などはまだまだです。普段、何げなく捨ててしまっているものにも第二の人生があるわけです。(立川和美・記)

リサイクルにおいて物流はとても重要な要素です



[社会学部]
根橋正一 教授

私はもともと中国、アジア地域を研究対象としていましたが、現在は更に広い領域に関心を持っています。

一つは国際社会学ですね。世界は一つの経済システムに組み込まれているというワールドシステム論と国際観光との関係に注目して、国境を超える観光・旅行の在り方を考えています。二つめは障がい者旅行論です。これは、すでに観光業界においては関心の高い分野なのですが、その理論的アプローチを進めているのは、日本国内では本学ぐらいなものなんです。三つめは、グリーンツーリズム(農業観光)です。農地の多い都市である龍ヶ崎で、この可能性を探っています。今年から自分でも農業を始め、ピーマンやエダマメ、ジャガイモ、唐辛子などを育てました。雑草が生えて大変なことにもなっていますがね(笑)。また、大洗町や北茨城市でのブルーツーリズム(漁業観光)も実りの多い領域だと考えています。このテーマで茨城県や千葉県を対象地にして調査研究を始めています。

プライベートでは登山が趣味で、日本百名山の踏破を目指し、現在挑戦中です。

(立川和美・記)

いろいろな視点から観光を探っています



[経済学部]
関根秀一 教授

私の専門は近世以降の美術史です。大学院からイタリア・ルネサンス美術、とくに画家ポッティチェリを主な研究テーマとしてきました。それで夏休みや冬休みにはしばしばイタリアを旅していました。

ローマのフィウミチーノ空港に最終便が着くと、そこには懐かしい夏の夜の熱風のイタリアがあり、その夏の香りに包まれることが私の夏のヴァカンスの始まりと研究の継続の始まりでした。

冬も同じように、ミラノのマルペンサから美術館や図書館にゆき、資料を探しました。雪の少ない霧のミラノ、いつも列車が何時間も遅れます。それが何だかイタリアに居る感覚を楽しませてくれました。

私の美術の授業やゼミでは、絵の話とともにそんな話をします。広く自由な眼をもってほしいのです。

最近、日本に初めてゴッホを紹介した、日本最初の反アカデミズムの画家、斎藤与里の研究をしています。斎藤与里の芸術世界は産業革命がもたらした新たなルネサンスだからです。

美術作品から広く自由な思考を学んでほしいと思います

「馬場啓一の RKUウォッチング」6



田山寛豪 たやまひろかつ
流通経済大学職員。トライアスロン選手。
本学社会学部を2004年3月に卒業。2008年5月より職員となる。
北京オリンピックには、本学の所属として出場している。

アスリート 田山寛豪 に聞く

ナイス・ガイである。それも近年希な。本学の卒業生であるというのが誇りに思える。昔の人の言い方を借りれば、是非娘の婿にしたいと願うような、そういうキャラクター。
惜しくも北京オリンピックでは、残念な結果に終わった。だが流通経済大学の学生と教職員はこぞって、その敢闘に声援を送った。

現在は二〇一二年のロンドンを目指して厳しいトレーニングを重ねている。本学の職員としてその職責を果たしながら。自宅も大学のごく近くである。龍ヶ崎キャンパスの学生は、その姿に接することができるはずである。

「一応夏場のスポーツなので、冬のオフ・シーズンは豪州に行ったりすることもあります。現在はここ龍ヶ崎で調整しながら、日常の大学の業務もこなすという日々です」

腹の据わった、という表現があるが、田山寛豪の印

田山寛豪が三連覇
10月26日(日)、第14回日本トライアスロン選手権東京港大会が、港区台場の特設会場において行われ、田山寛豪選手が1時間48分46秒で3年連続5度目の優勝を飾りました。



象はまさにそれ。一芸に秀でると、こういう人格に仕上がるのかね。身内誉めやヨイショではなく、我がスポーツ健康科学部の教員各位にも実は、こういう清々しい印象を与える方が何人もいらっしやる。流通経済大学の強みは、こんなところにもあるのではないか。それはとにかく田山寛豪である。

「よく食べます。それも、なんでも食べる。特に好きなのは日本蕎麦です。例えば学食で焼魚定食を選んで、もう一品蕎麦を食べてしまう。食べることも仕事のひとつですから」
そう、運動選手は体が命、人形は顔が命。我が田山寛豪の受け答えはハキハキとしており、屈託がない。しかしニコニコ笑ってこなせる競技ではないことは誰もが知っている。こんな苛酷なスポーツは他にちょっと見当たらない。どうして選んだのだろう。
「水泳を三歳からやっていました。スイミング・クラブ

です。それから色々なスポーツを試しましたが、結局これに」

水泳が一・五キロ、自転車四〇キロ、そして、マラソンが一〇キロである。

「その上を行くアイアン・マラソンという競技もあって、こ

っちはフル・マラソンで、水泳は三・八キロ、自転車は一八〇・二キロです」

聴いているだけでクラクラしてくる。

「それを六十歳過ぎのお婆ちゃん(失礼)やっていたりするんですから、世の中

は面白いですね」

使用する自転車は百万円以上する特製、だという。素材はカーボン、最近だとゴルフ・クラブなんかに使われたりする。

「カーボンだから六キロくらいしかないんです。だから片手で持ち上げられる」

ママ・チャリだって一〇キロは超えるのではないか。科学の粋を集めた自転車なのだ。

「ユニフォームとかも結構高くて。だから誰にでも勧められない、というスポーツではないのです。でもなるべく多くの人に関心を持ってほしいし、やってみたいと思ってほしい」

田山寛豪、こだわっていることが一つある。

「競技に臨むときは必ず新しいパンツ(下着)を着けます。さあ、頑張るぞって自分に言い聞かせる意味があるのかもしれない。優勝したり、成績の良かったときに着けていたパンツは、だから大事にします。(笑)」





OB/OG訪問
立川が聞く
6

夢を決して
あきらめないで
ほしいと思います。

荒木隆史さん

(一九七六年 経済学部卒業)

今回は昭和五十一年三月に本学経済学部経済学科を卒業され現在は阿見町立朝日中学校の校長先生として活躍されている荒木隆史さんにお話を伺いました。

取材・立川和美(社会学部准教授)

「ご実家は農業をされているそうですが、本学の経済学部に入學されたきっかけはどういうものだったのですか？」

私は江戸崎高等学校の園芸科で学び、将来は農家の後継者となることを考えていました。ですがその一方で、農業の流通の分野、つまり生産者から消費者へ

と産物が流れていく過程がもっと合理的になり、そして生産者と消費者のお互いの声がもっと直接的に反映されれば、農業は更に伸びていくのではないかと感じました。そこでそういう分野を勉強したいと考え、実家にも近いこともあって流経大に進学したんです。

「大学時代はどのように過ごされたのですか？」

ゼミは松本達郎先生のゼミでした。また空手部に所属し、心身を鍛えました。それまでもスポーツはいろいろとやっていたのですが、大学入学をきっかけに自分自身に「強さ」が欲しい

と考え、それならば、武道の空手がよいのではないかと始めたわけなんです。松本先生は空手部の部長でもあり、お酒の席などで若い学生達との議論にも、よくおつきあいくださいました。また学生会長を務めたり下宿生活を経験したりすることで、他の都道府県からき

た友達もたくさんできました。自分を広げることができたのではないかと思います。

「ご卒業後、教員というお仕事を選ばれた理由は何ですか？」

私が大学四年生の頃というのは、丁度オイルショックで先が見えない厳しい時で、常に不安がありました。でも、ともかく子どもが好きでしたね。子どもとの接触ができる仕事に魅力を感じていましたから、教職に就こうという明確な目標ができてからは、それに向かって努力することは楽しかったです。大学在学中に中学と高等学校の社会科の教員免許状はとったのですが、当時採用が全くなかったものから、それならばと一念発起し、卒業後二年かけて明星大学の通信課程で小学校教員の免許をとり、茨城県の小学校に勤めることになったんです。就職が決まった時に大学に挨拶に行きましたら、当時の佐伯学長もとても喜んで激励してくださって、嬉しかったことを覚えています。

「最初は小学校の先生からスタートされたのですか？」

ええ、そうです。最初の四年間小学校に勤めたあと、美浦中学校で四年間社会科の教員をし、その後、小学校や中学校の教頭、指導主事として龍ヶ崎教育センターの所長や教育委員会指導

課長などを経て、中学校や小学校の校長を勤めるようになりました。現在勤務している朝日中学校には、この四月に赴任したばかりです。龍ヶ崎では、不登校の子も私たちへの支援や、龍流連携で流経大と共同の仕事もありましたね。

「教育の分野でも、本当にたくさんのお仕事に携わっていらっしゃったわけですが、お仕事をやる上で心がけていらっしゃることはどのようなことですか？」

そうですね。ともかくまずは、相手の話をよく聞いて、相手を理解しようとするでしょうか。教員の仕事というのは指導が中心ですから、相手の話を聞くという姿勢は意識的に持たないといけないのではないかなと思うんです。これは私自身が龍ヶ崎教育センターに勤務した時に学んだカウンセラー研修が大きく役立っています。それから子どもたちの発想の素晴らしさを大切にしようという心がけています。大人はどうしても考え方が画一的といえますか、規範的になりがちですが、子どもたちは思いもかけないような考え方をしてくれます。そうした子供たちの可能性を育てていくことは、大きな仕事だと思っています。

あとは私自身の経験から学んだことでもありますが、人と人とのつながりを大切にすることでしょうか。何か

決断するとき、やはり周りの方々が親身に相談に乗ってくれたり、アドバイスを下さったりといったことは本当にありがたいことだと思えます。ですから、自分も周りの方々に対して常に誠実に接し、人間同士の結びつきを大切にしていきたいと思っていますね。

を実現することは難しいかもしれませんが、それに向けて努力したことは決して無駄にはなりません。そうした努力から自分に対する自信というものも生まれてくるのではないのでしょうか。

「お休みの日は、どのように過ごされているのですか？」

実は、土曜日は結構、学校行事が入るんですよ。ですからなかなか時間がとれないのですが、自然散策や野菜、果物、花などを育てるのが楽しみです。



「最後に流経大生にひとことお願いいたします。」
夢をあきらめないでください、ということですね。人間はそれぞれいろいろな生き方があり、そして夢があるはずなんです。まずは、そうした「夢」、つまり「自分がやりたいこと」を見つけてください。そのためにはただ待っているだけでは駄目です。動かなければ何も変わりませんから。うまくいくかどうかは分からなくても、ともかく何事にも挑戦してみてください。これは普段から子どもたちにも言っているのですが、「やればできる」という気持ちを持って行動を開始することです。自分で動くことで様々な出会いがあり、そこから多くのものを吸収していくことができるわけなんです。今の時代、夢

「校長室」へ伺うということで、非常に緊張していましたが、「ようこそいらっしゃいました」と優しい笑顔でお迎えくださいました。龍ヶ崎には学生時代と仕事とで17年関わっていらしたとのこと、「大学も町も、あったかいところが好きなんです」という嬉しいお言葉を頂戴しました。小学校の校長先生をなさっていた時には、生徒が自由に入出入りできるようにドアはいつも開けたままの校長室になさっていたという、本当に生徒思いの、気さくで魅力的な先生でした。

NEWS & TOPICS

つくばね祭 開催



第43回つくばね祭（龍ヶ崎キャンパス学園祭）が11月1～2日に開催されました。

今年のおつくばね祭のテーマは「過去+α=現在」。過去に開催された42回のおつくばね祭に、今回のメンバーの気持ち（=α）をプラスしたものが現在のつくばね祭という、今年にける強い思いが詰まっています。

つくばね祭では、ステージ企画、地域のお子さま向け企画、ブース、模擬店など、様々な企画が満載。大盛況のうちに終了しました。

ご来場くださったみなさま、また活動にご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。



三宅雪嶺記念資料館 講演会 開催



佐伯順子氏

11月29日（土）午後1時より、本学新松戸キャンパス201教室において、本学の三宅雪嶺記念資料館が主催する講演会「明治の女性作家 三宅花圃をめぐって」を開催いたしました。

三宅雪嶺の妻であり、明治の女性文学の草分けの一人であった三宅花圃をめぐり、佐伯順子氏（同志社大学大学院教授）から、「明治の女性の語り～三宅花圃と樋口一葉」と題し、明治時代の女性が置かれていた状況を踏まえながら、花圃と一葉の文学に見られる女性の描き方や語り方について、三宅立雄氏（本学名誉教授、三宅雪嶺嫡孫）から「祖母・三宅花圃の思い出」と題し、生活を共にした日々に見た花圃の姿について、それぞれ貴重なお話を頂戴し、約120名のご来場の方々から熱心にご聴講いただきました。

また、講演会場に隣接して、企画展「明治の女性作家 三宅花圃」展も同時に開催し、花圃の生涯と文学を残された史資料で紹介いたしました。



三宅立雄氏



留学生紹介

「自分の夢をつかむために、日本へ」

流通情報学部 / 流通情報学科 / 4年

ZAW PYAE ソー・ピャエー（ミャンマー）

情報関連の仕事に就くために日本にやってきたゾー君。彼の真面目さが垣間見えるインタビューとなりました。

取材：沖野雅広（企画広報室）



なぜ本学を受験しようと思ったのですか？

日本語学校に在学していた時は、専門学校への進学を考えていました。でも、今後の生活や家庭の事を考えた結果、大学に行こうと決めました。そして僕の将来やりたいことを考え、日本語学校の先生とも相談し、情報分野の学科があったので受験しました。

母国でも大学に行かれていたのですよね。

歯科医の専門大学に進学し、一年間学びました。そのまま歯科医になったら、ある程度満足のいく生活は出来たと思います。でも、自分のやりたいことが情報に関する仕事であり、自分のやりたいことの道を広げるために通信大学に転入し英語を学びました。

カケになったのはどんなことですか？

ミャンマーでは、高校から進学する時に、在学時の成績で進路（大学）が決定します。自分の希望でなくても、進めるならば少しでも上に行く風潮がありました。希望する情報に関する大学は、少し下にあり、歯科医に比べて、情報の仕事は母国では将来性がまだ見込めないというのがあります。

そんな時に、叔母が声をかけてくれました。日本で結婚した叔母がミャンマーに里帰りの時に、日本に来たらと。そこで道が開けた気がして、今にいたります。

大学の授業はどうですか？

内桶先生のゼミに所属しています。情報分野のゼミですが、今後役立つであろうプレゼンの練習等も行いますし、先生も優しく指導してくれれます。

日本での生活は？

叔母の家に居候しています。野菜たっぷりの鍋を、家族で食べるのは楽しいですね。たまに、自分で作ることもありますよ。よく作

るのは、焼きビーフン。一人の時は、こればかり作っています。

ミャンマーと日本、それぞれ良いところがあると思いますか？

ミャンマーは生まれ育った国なので、いつ帰郷しても溶け込みやすい場所です。やはり、落ち着きますね。日本では、自分の事を考える時間を増やすことができました。ミャンマーでは、自分の将来のゴールがなく決まって見えてしまいうような気がして、だからあまり考えません。ですが日本では今まで想像もできなかった未来をいくつも見ることができました。

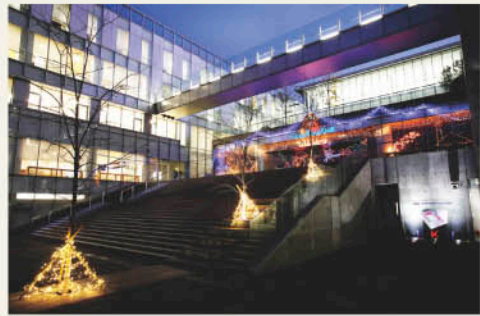
日本での就職が決まったそうですね。

大学入学時は、日本で情報に関する仕事に就きたいと考えていました。それがかなわなければ、日本で学んだことを活かして、母国で流通に関する仕事と考えていました。嬉しいことに、日本で内定をいただけたので、頑張っ

光のフェスタ

新松戸キャンパスをイルミネーションが彩る「光のフェスタ」。これは新松戸駅周辺の活性化や防犯対策を目的としたもので、今年で5回目の開催になりました。今回も、新松戸学生会を中心にたくさんの方に協力いただき点灯式を向かえました。

このイルミネーションは11月23日から12月24日の間、点灯されました。



職場体験学習

11月20・21日に龍ヶ崎市立中根台中学校2学年の生徒7名が、職場体験学習のため来学しました。将来、スポーツ関係の仕事に就きたいという希望を持っている生徒たちは、



本学スポーツ健康科学部の先生方や学生たちの協力のもと、スポーツ指導者、スポーツトレーナー、ライフセーバーなどについて、理解を深め、体験学習を行いました。

本学では、これからも、地域との連携・交流を深めていきたいと考えています。

もちつき



龍ヶ崎キャンパスで12月24日(水)に、恒例のもちつきが行われました。

野尻俊明前学長 退任

2002年11月1日の就任から2008年11月10日までの約6年間、本学の4代目学長として重責を無事に勤められました。



[編集後記]

●春はまだまだ先と思っていたら2月4日は立春である。もちろん寒さは、これからが本番といったところである。まだ1月なので、立春といっても実感がわかないが、春は確実に近づきつつある。学生にとって春季休業(春休み)は、夏季休業ほど開放的な雰囲気ではないが、2ヶ月近い休み期間は自由行動できる。旅行に出かけたり、アルバイトをしたりすることはごく一般的に考えられるパターンである。

●しかし、就職戦線を控えた3年生はそれどころではない。一昨年8月頃に問題化していたサブプライム住宅ローン問題は、昨秋に米証券業界大手のリーマン・ブラザーズの経営が破綻した途端に金融恐慌といわれるほどの大問題となり、株式や証券化商品の相場が暴落し猛烈な勢いで米国はもちろんのこと世界各国にその影響を及ぼしている。

その影響で、わが国のほとんどの業界が減収減益におちいってしまった。少なくとも昨年夏ごろまでサブプライム住宅ローン問題の影響を受けることが少なかった、大学卒業予定者の求人は急に冷え込みつつある。

●これを乗り越え大願成就するためには、実力をつけるしかない。就職支援センターで開催しているガイダンスやセミナー等に出席していろんな情報を得ると共に新聞の国際情勢、政治そして経済等に関する記事をよく読み理解するなど大学生としての実力をつけ就職戦線に立ち向かわなければならない。そのような観点からすると3年生は、旅行やアルバイトに時間を費やす余裕は無いといった状況の下にある。

努力は必ずや報われるものと思う。目標に向かってあきらめることなく邁進することを強く願う次第である。(編集子)

オリンピックシンポジウム開催



去る7月10日(木)に本学スポーツ健康科学部1・2年教養総合演習の一貫としてオリンピックシンポジウムを開催しました。

シンポジストに国立スポーツ科学センター(JISS)スポーツ情報研究部の和久貴洋氏と財団法人日本オリンピック委員会(JOC)専任情報・科学スタッフ山下修平氏をお迎えし、総合司会に本学専任講師である荒井宏和というメンバーでした。

本シンポジウムで和久氏は、8月8日に中国・北京で開催された北京オリンピックについてスポーツに携わる学生としてどのような視点で見ると、また、オリンピックでメダルを獲得するまでの見えない我が国のスポーツ戦略についての内容を説明し、山下氏は、オリンピックで勝つためにはスポーツに携わる人々がチームジャパンの一員としてサポートする必要があると述べました。

(文・スポーツ健康科学部 田畑 亨)

永年勤続教職員表彰



本学に勤続されて30年間、大学を支えていただいた教職員に児玉理事長(後列左)と野尻前学長(前列中央)より記念の表彰がなされました。

[対象者]
教員: 松田 英教授(中列左)・石田 譲教授(前列左)・田多英範教授(中列中央)・生田保夫教授(前列右)
職員: 赤石 守総務部長代理(後列中央)・高橋治子人事課係長(中列右)

メインアリーナ着工



2008年10月1日より、スポーツ健康センターのメインアリーナ(3階建て・延面積4,060m²)の設置工事が始まりました。完成は2009年9月24日を予定しております。

観光立県セミナー開催



平成20年11月29日、30日に成田商工会議所において、千葉県並びに本学主催の「観光立県セミナー」が開催されました。本学教員6名により、観光に関わる幅広い視点から講演が実施され、約40名の観光関係者等の参加がありました。

RKU Schedule 2009年1月～3月

[全学]

1/20～2/2	秋学期定期試験【龍ヶ崎・新松戸】
2/3～3/31	春季休業期間【龍ヶ崎・新松戸】
2/11～2/25	ヨーロッパツアー【龍ヶ崎・新松戸】
3/20	卒業式【龍ヶ崎】
4/1	入学式【龍ヶ崎】

[入試関連]

2/6・2/26	一般入試(A方式)【龍ヶ崎・新松戸・仙台・東京】
2/1・2/16・3/10	一般入試(B方式)【龍ヶ崎・新松戸 ※2/16のみ仙台会場あり】
1/24	AO入試【龍ヶ崎】
2/1	外国人留学生入試【龍ヶ崎】
2/26	編・転入入試【龍ヶ崎】

[就職関連]

1/24	第7回就職ガイダンス(就職活動出発式)※3年生対象【龍ヶ崎・新松戸】
1/26～1/30	業界・企業説明会 ※3年生対象【龍ヶ崎・新松戸】



祝優勝

流通経済大学が第82回関東大学
サッカーリーグで2年ぶり2度目
の優勝を果たしました。
ご声援ありがとうございました。



入試相談会 開催中

1月4日～7日・10日(10:00～14:00)

1月9日・20日～23日(15:00～18:00)

会場：龍ヶ崎キャンパス・新松戸キャンパス

内容：入試概要、学部・学科紹介、AOエントリー受付

お問い合わせ：TEL 0297-60-1156(入試センター直通)

RKU

流通経済大学広報誌 **RKU Today** vol.6

2009年1月発行

編集・発行 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555

TEL: 0297-64-0001(代表)

